

<様式3-別紙(A)>

平成 20 年 6 月 26 日

平成20年度聖ルカ・ライフサイエンス研究所

研 修 報 告 書

研 修 課 題

M. D. Anderson Cancer Center Medical Exchange Program

JME Program 2008

所属機関・職 東京医科大学病院 薬剤部 薬剤師

研修者氏名 大里 洋一 印

研修を経て創出した Mission & Vision

- **Mission:**

自分に関係するすべての人の才能を開花させる。

I shall develop a talent of all people who related to me.

- **Vision:**

薬学的な知識と技術と情熱で人々に夢と希望を与える世界一ファンタスティックな薬剤師になる。

I shall give people a lot of hopes and dreams, and become one of the most fantastic pharmacist in the world with pharmaceutical knowledge, technology and passion.

I 目的・方法

Page. _____

【目的】

M.D.Anderson Cancer Center でのチーム医療を学ぶ。多職種がそれぞれの特色を大いに発揮し、より患者さんの利益になるように行われている日々の取り組みを見ることにより、EBM の大切さ、Patient Care の意識の向上、そしてクリニカルクエスチョンを Research していくことの必要性を体験する。そして、それを日本でも生かせるようにする。

【方法】

医師・看護師・薬剤師が5週間をともに MDACC で研修を行い、講義や見学を通しチーム医療を学んでいく。

リーダーシップに関しての理解を深めるため、講義を受け実践していく。

症例検討を通し、Multidisciplinary Care を実践していく。

II 内容・実施経過

Page. _____

1 日目：Employee meeting に参加。ここでは MDACC の理念である、「Research：臨床試験/研究」「Patient Care：患者重視の医療/QOL を含めた研究&Prevention：予防促進」「Education：医者、その他の専門職、学生、患者、雇用者、そして公共」を教えられる。さらにこれを、講義ではなくて、イントラネットを使った独自のサイトで行う。約4時間のスライドを30日以内に読むこととの決まりがある。

2 日目：院内の見学を行う。ここには専門のガイドさんがいて、見学者を随時案内するシステムがある。この日は病棟、薬剤部、患者図書館など様々な所に案内された。

3 日目：ホスピス見学を行った。また、午後には Mentor との初顔合わせがあった。



ホスピス

4 日目：補完療法といわれるものの講義を受け、実際にそれがやられている Place of wellness という建物を見学。補完療法とは鍼灸、ヨガ、太極拳、食事療法、マッサージそして音楽療法など見学した。実は MD アンダーソンではしっかりとしたエビデンスを築いている。

5 日目：午前中に統計学総論を聞き、午後は看護総論、そして理学療法（リハビリテーション）・OT 療法の見学をした。



外来待合室

8,9 日目：乳腺外来を見学する。医師、看護師、PA などの働きをみる。非常に効率の良い情報収集と、診察から薬剤処方などの流れを見させていただいた。

10 日目：病棟の APN について、一日 APN の仕事を見学する。各職種の（特に上級看護師、臨床薬剤師）のレベルの高さに驚かされる。それぞれの職種にかなり大きな権限があるのは、それ相応の能力があるからなのだと実感した。

11 日目：薬剤師について病棟を回診する。前日同様その専門性の高さに驚かされる。こうなるにいたるまで、かなりの教育を要しているとのこと。Education の大切さを学ぶ。



病棟の見学

12 日目：Radio Oncologist について見学した。放射線治療部の規模の大きさに驚かされる。放射線科でも放射線科医、放射線技師、さらに線量測定師がおりかなり分業が進み専門性が保たれていることを実感した。

15 日目：病理の講義と見学を行った。病理医の数が非常に多いことに驚いた。また、ここでも外科医、病理医、放射線診断部によって迅速病理が行われていて、多職種の係わりが非常に大切であることを実感した。



病理の様子

16 日目：手術室の見学を行った。症例は乳房全摘と再建術。かなり長い時間見学した。



手術室の見学

17 日目：午前にはリーダーシップの講義を受け、午後はクリニックの薬剤部見学を行った。

18 日目：Ph.D に同行し、病棟回診ならびに病棟業務を見学した。この日ついたのは私の Mentor の Jeff であった。



病棟業務の様子

19 日目：本日も薬剤師の見学。病棟では薬剤師の権限はかなり強く、医師が化学療法を始める旨を薬剤師に伝えると、薬剤のオーダーをするのは薬剤師であった。つまり、投与量なども薬剤師が決定し、医師が承認する形をとる。



22 日目：午前は RN（病棟付きの看護師）の働きを見学した。午後は再び乳腺外来の見学。

23 日目：乳腺外来と Multidisciplinary conference に参加した。

24 日目：APN について骨髄移植病棟の見学を行った。以前の見学同様、APN と呼ばれる上級看護師の権限が強かった。RN とその働きがきっちり分かれている。

25 日目：CV カテーテル挿入室を見学したのち、乳腺外来を見学する。

この週には症例検討用の症例がほぼ決まり、最終日のプレゼンテーションに向けて、資料を作成し始める。



世界で初めて抗がん剤を始めた博士

28 日目：一日中手術室の見学。M.D.Anderson は病院のコンセプトに「Education」が入っている関係で、手術を見に行くのも非常に自由。乳房切除術と S 状結腸切除術を見学した。

29 日目：M.D.Anderson の IRB（倫理審査委員会）を見学した。我々の Mentor の一人、Dr.Theriolt がこの委員会の委員長をしていて、見事な Leadership を発揮していた。

30 日目：午前はプレゼンテーションの準備に充てることができ、午後は薬剤師の仕事を見学。外来化学療法センターのテクニシャンの仕事に密着することができた。

31 日目：薬剤師につき、午前は病棟、午後は外来を見学。このときはプレゼンテーションで頭がいっぱいになっており、見学に集中するのが大変であった。

32 日目：最終日プレゼンテーション。そして、業務終了時に修了証書授与パーティーが行われた。非常に感動的なセレモニーで、充実した日々を送れたことを感謝した。



プレゼンテーション



プレゼンテーション



修了証書授与パーティー

Ⅲ 成果

Page. _____

今回の研修は私に非常に大きな **impression** を与えました。「薬剤師はここまでできる」ということを、**M.D.Anderson** はしっかりと示してくれたと思います。チームオンコロジーの掲示板にも書いたことですが、これから薬剤師が非常に面白いと思うのです。現実問題、日々の業務でクタクタの医師、昼夜問わず忙しい看護師にあれこれ注文しても難しい。そんな日々を助けられるのは薬剤師であると声を大にして言いたい。今は無理でも、そういう気持ちをもって立場を得て、**M.D.Anderson** が示してくれたような薬剤師の働き、またはそれ以上の働きを是非していきたいと思いました。

こんなこと書くと、「今の日本では不可能」と言われるかも知れませんが、一番大事なのは、高い意識の薬剤師をもっと増やしていくことだと思います。一人が頑張っても限界があるとおもうのです。一人が 2 倍がんばるよりも、薬剤師を 2 人育てて仕事をする方が絶対に意味があることだと思います。つまり、私が 100 倍働けるかと言ったら不可能です。しかし 100 人育てると言われたら、時間は非常にかかると思いますが、多分出来ると思うのです。今の現場に必要なのは、スーパースターではなくて、人に **Vision** や **Mission** を与えることができる人ではないかと思います。その **Vision** の一つに「**M.D.Anderson** のような薬剤師に…」というのがあってもいいと思うし、なくてもいいと思う。でも、みんなで臨床を学んで、一緒に大きくなっていける薬剤師でありたいと思いました。

【EBM に関して】

MDACC の医療を支えているのはチーム医療という概念です。日本では「言葉だけが独り歩きしている傾向がありますね」と、上野先生はおっしゃっていましたが、**M.D.Anderson** ではしっかりとシステムの下、医師、**Ph.D (Pharm.D)**、**APN (Advanced Practicional Nurse)** がチームを組んで医療を行っています。ですが、このチームでさえ、**Ph.D** と **APN** の意見が対立して感情的になることがあるそうです。そういった時に「**Dr** の力が発揮されるのだ」と上野先生はおっしゃいます。「まあまあ…」とお茶を濁すのは最低のやり方であり、「こちらの方が **Evidence** レベルは高いから、今回はこちらを採用しましょう」と切り抜けるか、もしくは「**Evidence** を探して、明日また **Discussion** しましょう」などと、冷静に **Evidence** で勝負することで信頼を勝ち取れるのだそうです。チーム医療を進めていく上で、**EBM** の概念を習得することは非常に重要であるし、**EBM** の考えがあれば非常にスムーズな業務が行えると思いました。

【患者教育に関して】

アメリカの患者さんの特徴として、自分の病気のこと、使用している薬剤のことを本当によく勉強しているということがあげられます。子供のころからそのように教育されて育つのだそうですが、日本でも患者の教育が急務であると感じました。全てを医師にゆだねる事は非常に楽ですが、それではいつまでたっても自立できません。私は患者さんが自分の病気の

ことや薬のことをしっかりと理解できるようサポートすることに非常に興味を持ちました。地域社会を含めて、Education していくことはとても大切なことだと思います。

【臨床試験に関して】

日々の業務の中で必ずクリニカルクエストにぶつかります。そこで、さまざまな文献を検索し Evidence を探るわけですが、必ずしも必要とする Evidence がそこにあるとは限りません。そこで、今までの私は「Evidence なし」として諦めていましたが、MDACC で研修を終えた今、「分からないことがあったら臨床試験をして分かるようにすればいい」という気持ちになってきました。確かに臨床試験を組むにはそれなりの時間や手間が必要ですが、以前よりもその敷居が下がってきたことは確かです。自分にもできるかもしれないという希望が出てきました。

【Vision と Mission に関して】

日々、忙しく働いていると自分がどこに向かっているのか分からなくなることが多々あります。Vision と Mission をあらかじめ作っておいて、それを Mentor に評価してもらい、道筋を作っていくことは非常に大切であるし、また合理的であると理解できました。

【Mentor に関して】

良い Mentor を見つけることが一番大切という上野先生の言葉が非常に印象的です。いかに指導されるかが重要なのだということを認識しました。今回得た人脈を大切にしていきたいと思います。そして、いつか自分も良い Mentor になれるよう精進していこうと思いました。

今回、MDACC に研修に行き、初めの頃はその規模の大きさと充実した設備の素晴らしさに感激する日々で、これを日本でやるのは不可能だと思うことも多くありました。しかし、日を追うごとに、今回学ぶべきことはそういった物質的なものではなく、むしろその中で働いているスタッフのスピリットの部分であることに気付きました。つまり、互いを尊重し多職種が共同して治療にあたる医療や、常のがん治療の最前線を目指すために研究を続けていく志などです。アメリカと日本では経済、労働環境、医療制度などはきっと大きく違うと思います。ですが、同じ医療者（薬剤師）として、ここまで出来るんだと思えた事は、私に大きな希望を与えました。今回の経験を生かし、日本の薬剤師が飛躍できるよう私も頑張っていきたいと思いました。

IV 今後の課題

Page. _____

私の Vision と Mission は社会全体を Educate していくことを一番の目標として建てられたものである。

今の私のままでは、社会を教育していくことは不可能である。まずは自分自身を教育していかなければならない。

自分を変えていく過程で得られる全ての物が、将来若い薬剤師の教育に必ず役に立つと思う。これからの薬剤師に、薬剤師という職業が誇りに思えるよう頑張っていきたい。

その中で、頑張るポイントは

- ・ EBM
- ・ Patient Care
- ・ Research

である。特に現在は血液内科に所属しているので、Evidence をいかに確保するかが非常に重要となる。MDACC で得た EBM への思いを胸に努力していきたいと思う。